

も じ と 人 婦

號 一 第 卷 八 十 第

感 雜 丁 園

1

○ 教育は人情の發露である。人情だけでは教育は出来ない。研究がある。設備がある。方法がある。しかし、之等は皆人情の土臺の上に築かれたものである。之等のものが如何に完備しても、人情の缺けた處に教育はない。

○ 我等の教育に、常に潤澤なる人情味を洩えしめよ。もつと大膽に人情を流露せしめよ。そこに始めて自分も生き、子供も生きる。

○ 子供を樂ませるはよいことである。子供と共に樂しむのは更によいことである。子供を上手に遊ばせ得る人はえらい人である。しかも、子供と一緒に、自分も愉快に愉快に樂しく遊び得る人は、一層えらい人である。

○ 子供のお手本だと思へば苦しい。お手本は別にあつて、子供と一緒に其のお手本を習つて居るのだと思へば樂だ。子供の理想の標的だと思へば苦しい。理想の標的は彼方にあつて、自分も子供と一緒に、それに向つて専心進みつゝあるのだと思へば樂だ。

○ 聖者には聖者の教育がある。完全者には完全者の教育がある。しかも、我等には我等にでも出来る教育がある。凡人淨土、凡夫即教育者。我等でも教育者になれる途がある。

○ 子供にとつて嬉しいことは、我等が如何に立派な人間であるかよりも、我等を如何に存分に彼等に與へて呉れるかである。子供にとつて幸福なことも、教育的に最も有益なことも、恐らく之れに他なるまい。

我等から何をやるかでなくて、我等を與へるのである。それだけが我等に出来る。

(倉橋生)